

## 豊府指南

## 解題

県立大分図書館所蔵の「豊府指南」は、府内藩、とくに府内城下町に関する基本史料として夙にその名を知られていた。『大分市史』（昭和三十年版）では、府内城下町の記載では、随所に豊府指南を利用している。しかし、それは、市史の記載に必要なものが細切的に引用され、その全体像を知ることができない。

豊府指南は、すでに府内藩儒阿部淡斎（一八一三～一八八〇）が編集したといわれる『雉城雜誌』（『大分県郷土史料集成 地誌編』所収）などにも引用されているが、全文の翻刻は今回が初めてである。

豊府指南の編者・年代は明確でない。しかし、巻末には

尾登一信  
 豊田寛三  
 秦政博

「天保九戊戌年五月」と記されており、現存する写本が天保九年（一八三八）の作成によるものであることが判明する。本文の成立についてヒントを与える記載がある。それは「当天保五甲午年迄〇〇年」「〇〇年以前」「当年迄〇〇年」「〇〇年」という記述である。この記述から推察すると、延享三年（一七四六）、天保五年が、当年に該当することが判明する。

延享三年は、幕府巡見使富永靱負らが府内藩を訪れた年である。府内の町人口などには宝永七年（一七一〇）のものがあげられている。この年も巡見使の訪れた年であった。そうしたことからすれば、ここにあげられた資料は幕府巡見使の質問への回答のために作成されたものといえよう。しかし、天保度の巡見使来訪は天保九年であり、天保五年は、少し早す

ぎるかもしれない。

いずれにしても、豊府指南は、府内城下町の家数・人口や町の諸施設、町民の負担などを中心として第一級の史料であることは明白である。

本稿は、尾登一信が原稿を作成し、校訂などには、秦・豊田が協力をした。史料中の句点その他は、近世史料翻刻の基  
本原則に従った。  
(豊田記)

(表紙・横腹)

(統一五・七糧  
横二〇・五糧)

# 豊府指南

天保九年

一 御先祖近正公於參河国大給地被為入御繩之刻千五拾石初て

御拝領天正十八庚寅於上野国群馬郡三倉御増地にて五千五

百石御拝領慶長五年八月朔日於伏見城御討死干時御年五十

四

但御在邑十一年

一一生公御家督之上従三倉於下野国都賀郡板橋御増地にて老

万石御拝領慶長九年四月廿五日御逝去干時御年三十五

但御在邑五年

一 忠照公寛永十一甲戌年七月丹波從龜山豊後国津留村え御所  
替

但 御在邑十七年  
津留喬松(ツルノ)にて廿五年

一万治元戊戌年四月十五日府内城御拝領之、延宝四丙辰年三月廿七日御隠居干時御年六十、元録(ノ)六癸酉年九月十二日御逝去干時御年七十七

但万治元戊戌年ヨリ當天保五甲午年迄百七拾七年ニ成

天正十八庚寅年より當天保五甲午年迄式百四拾五年ニ

成

中津留庄屋書留

一 寛永十二乙亥十二月廿七日

忠昭公從里屋中津留村え御移、庄尾平右衛門宅え御居住、

尚又御供之御家人平右衛門一類之者共家主明ヶ除居住ニ付

庄屋始只今之村地え小屋掛引移、其後寛永十九壬午年高松

え御引移、右所所え前後廿四年御在邑

万治元戊戌年御城え御入部

右は中津留村庄屋平右衛門留書之由にて差出、右書留ヲ以

按ルニ寛永十一甲戌七月丹波龜山より里屋え御出、同所え

翌寛永十二亥十二月廿六日迄御滞留ニて廿七日中津留え御

引移、仍之津留高松ニて二十四年ノ御在邑ニ成、中津留村

え御在邑ノ節御屋敷繪図有之

宝永七寅二月改

一高千百七拾六石五斗七升四合 府内

内

高貳拾石壹斗三升五合五勺 御免許町屋敷高貳百六拾

石貳斗七升壹合五勺田畑高八百九拾六石壹斗七升七合

曲輪内

一町數貳拾九町

同所

此家數六百七拾軒

内

拾八軒御免許

一寺五ヶ所

本光寺常妙寺

光西寺大智寺

報恩寺

此人數七十八人

内

僧五十貳人 男八人

女拾六人 山伏貳人

宝藏院

一人數三千四百八拾六人

内

男千八百七拾人

女千六百拾六人

内拾七人男八人 牢人一札之者

馬三拾貳疋 牛壹疋

一高三百貳拾石八斗貳升六合

笠和

内

屋敷高拾八石七斗八升五合

田畑高三百貳石四升一合

一人數五百拾人 山伏四人 明王院

内

男貳百七拾三人

女貳百三拾七人

馬八疋 牛六疋

成重公御在區十二年

一慶長九年成重公御家督其後同十九甲寅年板橋より大坂え御  
出陣元和三丙辰年巷万石御加増參州西尾城ヲ御拜領

但御在城五年

一成重公元和七年酉貳千貳百石御加増ニて丹波龜山城御拜領

都て貳万貳千貳百石寛永十癸酉年九月十六日御逝去千時御

年四十

但御在城十三年

忠照公御在城三年

右之内ニテ

高百五拾五石六升一合 同慈寺

屋敷高九石四斗八升

内 田畑高百四拾五石五斗八升一合

町数巷丁 細工町 同所

此家数三拾六軒 同所

男八拾七人

女七拾貳人

一高五百三拾四石八斗巷升巷合三勺 松末

内

高五拾八石八斗七升貳合五勺 御免許

町屋敷高六拾石六斗三升貳合貳勺

田畑高四百拾五石三斗六升六合

曲輪内

一町数九町 同所

此家数貳百三拾巷軒

内

八拾八軒 御免許

一善巧寺 淨竜寺

来迎寺 万寿寺

要実庵共ニ

一人數四百八拾巷人

内

男貳百六拾三人

女貳百拾八人

内四拾三人 男廿貳人 女廿巷人 牢人一札之者

馬拾三疋 牛三疋

一高貳百三拾九石六升七合 千手堂

内



高六石貳斗壹升 御免許

町屋敷高五拾六石五升貳合

田畑高百七拾六石八斗五合

曲輪内此家数百四拾壹軒

内

同所

四軒 御免許

一人數六百八

内

男三百八人

女貳百八拾七人 山伏五人 内女貳人 牢人 一札之も

の

一掘川貳町

此家数五拾貳軒

勢家内

人数三百人 内男百五拾六人 女百四十四人

一船頭町 網町

同断

此家数拾軒

人数三拾七人

内男廿人 女拾七人

御曲輪内

町数四拾九町

家数合千貳百廿軒

人数合五千四百拾四人

内男貳千八百九拾人

女貳千五百拾九人

僧

山伏 馬五拾三疋 牛拾疋

此外ニ奉公人男女と宗門御改帳違ひ者ハ不書載也

一西新町

此家数七拾七軒

人数三百九拾貳人

内男貳百五人

女百七拾九人

僧 八人

右宝永七年二月改之

但万治元御打入より五拾三年ニ成宝永七年より天

保五年迄百貳拾五年ニ成

延享三丙寅三月改

一町数四拾八丁

但手船拾七艘 回船拾四艘

内船（マ）小伝間八艘

寺五ヶ寺 牛六足

馬三拾六足

一御高札数六枚 但（切支丹札 添札 忠孝札 伴天連札）

一 曲輪内家数千百拾軒

人数合三千八百五拾六人

内男貳千貳拾五人

女千八百三十一人

町役高百三拾貳人 土藏百九拾六

町四ヶ所地子高四百七石貳斗貳升壹合三勺

一 外町四丁六両新町勢留塩九升町家数貳百三拾三軒

同寺五ヶ寺、内外十ヶ寺、人数百四人、同山伏卷ヶ所、人

数拾四人、同四丁人数合九百八拾一人

内男四百九拾六人

女四百八拾二人 社人三人

一 曲輪内四ヶ所屋敷高四百七石貳斗貳升壹合三勺

此物成米三百廿六石壹斗七升壹合

一 町四ヶ所職人

賃屋六軒 計屋三拾四軒 塗師屋拾五軒

金具屋四軒 研鞘師拾一軒 仕立屋四軒

油屋七軒 桧物屋拾壹軒 桶屋三拾壹軒

鍛冶屋拾七軒 革屋三軒 揚酒屋廿三軒

魚屋拾六軒 柄卷屋貳軒 紺屋拾貳軒

家大工廿一軒 船大工八人 醫師七人

針医三人 外療卷人

外 茜屋二軒 造酒屋五軒 蠟燭掛二軒

一 外 元町 西新町 勢溜 塩九升町 右五ヶ所共三府中之

内也

一 惣高千九拾七石三斗壹升八合 府内

内拾三石六斗九升四合 永川永捨

貳拾石七斗六升 御免許

残高千百六拾貳石八斗六升四合

米六百五拾四石貳斗八升五合

納 大豆六拾四石三斗八合 御免 田七ツ六分 畑貳ツ五分

一 同高五百六拾壹石五斗三升四合 松末

内式拾八石四斗八升貳合 永川永捨

六拾五石貳斗八合六勺 御免許

残高四百六拾七石七斗六升六合

米百拾七石七斗五升五合

納 大豆四拾八石九斗七升九合 御免田五ツ 御免畑式ツ一分

一同高式百四拾九石四斗式升三合 千手堂

内九石四斗式升四合 永川永捨

七石六斗四升六合 御免許

残高式百三拾式石三斗五升三合

納 米百五拾石三斗五升九合

大豆六石三斗式升四合 御免田八ツ 御免畑式ツ六分

一同高四百七拾六石七斗六升九合 笠和 同慈寺

内卷石八斗八升三合 永捨

残高四百七拾四石八斗八升六合

納 米三百三拾壹石壹斗三升八合

大豆拾七石三斗八升壹合 御免田八ツ二分 御免畑式ツ七分

町四ヶ所

一惣高式千四百八拾五石四升四合

内百四拾七石九升五合六勺 永捨町外 免許共

残高式千三百三拾七石九斗四升八合六勺

納 米千式百五十三石五斗三升七合

大豆百三拾六石九斗九升式合

但御年貢納方京舛也

壹俵ニ付米大豆共ニ三斗壹升式合入

一城下地子米之儀は年々米高七八拾石より百廿三十石迄モ不

納ニ仕置、五七年モ過ハ節差救捨リ仕為取申ハ

一町數四拾八ヶ所、此内式丁モ有之又壹丁も有之、或は三拾

間余リ有之ハ大概六十間之積四拾丁余有之ハ

一町中東西ノ間數拾丁三拾九間、南北八丁拾九間、但土井外

堀共ニ

一町役百三拾人余出申ハ、是ハ道橋諸事用事出申ハ役ニテ其

外ハ郷役ヲ仕ハ、前々ノ例ニテ扶持方も出申ハ、夫故余役

ハ無之ハ、卿役之分ハ普請川除御國回り杯ノ節壹人一日ニ

付六合六勺之扶持米出申ハ

一運上ハ大工役、桶屋役、一月ニ一人役勤申ハ

一塗師役、鍛冶役は上中下ノ定手間代次第、年中十二日ノ役

前銀子ニテ此内一日ノ飯料銀五分宛引出不申ハ

一魚札運上ハ壹枚ニ付銀三匁ツ、

一帆船銀船役無之

一浦役ト申年中ニ米壹石宛給分遣、水主入用之時分ハ右之も

の共呼出申ハ、大坂杯へ上下仕其内ハ毎日壹升宛飯米渡申

ゆ、但人数四拾五人半

一 牛馬野手銀ハ数年以前より差救申ゆ

一 酒樽大小ニ不限耆挺ニ付運上式分宛

但耆斗入より内ハ除之

一 水主雇様之事

但大坂上下耆人ニ付銀式拾匁内拾式匁ハ前々より大坂ニ

て申付ゆ、残八匁ハ浦手トシテ出之来ゆ

一 運賃之事

但大坂え米大豆為登ゆ節ハ石ニ付五升宛船頭へ差遣申ゆ

一 獵船四拾八艘、此運上沖濱より鱒六千生石ヨリ鱒千出申ゆ

銀子ニて出ゆへは耆分ニ式拾五ノ算用ニて出申ゆ

一 ヨコタヲシト申網之運上中鯛拾式枚出申ゆ、直段右之通

一 餅袋ト申ゆ銀四匁出申ゆ

一 公儀御法事之節獵留申付ゆへは獵師共妻子迄扶持米申付ゆ

一 湊船掛之事

但京泊り此所洲崎八十間之所宝永四亥八月十八日戌刻よ

り同十九日辰刻迄大風洪水ニて突切申ゆ

一 豎百七拾六間

坤より長ニ當ル

一 横式十五間

乾より巽ニ當ル

但川口共土手高耆丈四尺程所々高下之段右土手之内船

入百三十式間ニ幅五十間深サ耆丈

一 川口南風之時ハ船掛善シ、北西風ノ時は船掛不成、遠淺

ニて小潮之時ハ船入兼申ゆ

一 川船用ゆ所ハ坊ケ小路元町両所

一 橋ハ仙石橋計

一 津留メ之事

年々田畑作毛出来秋ノ時分役人共檢見仕、其後五六日毛間

ヲ置町郷中共相觸、城下堀川口笠和口塩九升口外門津留申

付ゆ、此段は年貢納方之間ニゆ、凡ニ三十日程之間之儀夫

ヲ過ゆへは差救申ゆ

但、津留メ外ハ毎日米拾五駄内拾駄笠和口五駄塩九升口

右両口之門より入申ゆ、堀川口よりハ入不申ゆ、其外

駄荷ハ大豆ヲ始雜穀は勝手次第門々入申ゆ、此様子先

代より如此

一 城下月々市有之ゆ、但三月朔日より初市立、十二月廿六日

迄六斎一六日有之ゆ、歳ノ暮ニ及テハ廿日頃より日々賑々

敷御座ゆ、尤諸方より諸式賣買仕ゆ、以前ハ中市町ノ辻

矢藏ニて市立申ゆ得共、夫ニてハ町内衰微申ゆ故町人仍願

其後何方之内ニても町内勝手次第売買仕<sup>ル</sup>ハ

一米大豆相場之儀は當地町人共大坂表問屋より承り合<sup>ヒ</sup>、然トモ當地ニて時ニ取<sup>ル</sup>テ買主多<sup>ク</sup>米大豆數少<sup>ク</sup>キ時ハ脇々相場より高値ニ有<sup>ル</sup>之<sup>ハ</sup>

一切支丹宗門之事

年中兩度之内春之改は領内寺社方町人百姓共午王ニ血判為仕切支丹繪像為踏、秋之改ハ町人百姓計繪像為踏申<sup>ル</sup>、但不限男女拾壹歳より血判申付<sup>ル</sup>

一諸奉公人春計繪為踏申<sup>ル</sup>、

右之外年中三度四月九月十一月廿八日町人百姓共申付邪蘇<sup>ズ</sup>

書付證文申付<sup>ル</sup>

但此書物ハ町郷中男女不断申聞耆人モ此宗門無之、其外

不受不施ノ日蓮宗無之旨證文申付<sup>ル</sup>

寛文十一年辛亥十月朔日觸書也

一内 本官山常妙寺 瑞相山本光寺

光西寺 善巧寺 淨竜寺

一外 蔣山万寿寺 尋声山来迎寺

金猊山大智寺 福田山報恩寺

新報山瑞光寺

内外十ヶ寺

町組 忠孝 毒菓 男女  
一御高札 切支丹 伴天連 御添札

中上市町 千手堂町 東西八ヶ村

外浦手 生石 勢家 萩原 今津留

一寛保三癸亥年四月七日焼失町數四拾貳丁内卷丁門外、但寺

式ヶ所淨龍寺門卷ヶ所搭頭式ヶ寺善巧寺長濱明神神本社并

控殿共

惣家數千七拾九軒、外土蔵三拾七ヶ所、死人三人、死馬壹疋

一田畑高三百三拾四石貳斗八合 牧村

一同三拾八石四斗壹升九合 花津留

一同百六拾八石三斗六升七合 萩原

一同貳百五拾七石五斗九升九合 今津留

一同千七百七拾石三斗五升五合壹勺 駄原

一同貳百六拾八石三斗八合 生石

一同八百九拾三石六斗三升三合八勺 勢家

一同三百拾七石三斗三合五勺 中津留

一竈數百廿五軒

牧村

人数七百五拾壹人内男三百八十六人  
女三百六十五人

牛八疋 馬三十八疋

一同三百四拾七軒

萩原

人数千七百五十五人内男九百十人  
女八百四十五人

牛十疋 馬五十疋

一同四拾五軒

花津留

人数三百九人内男百五十三人  
女百五十六人

馬十七疋

一同七拾四軒

中津留

人数四百九拾貳人内男貳百四十四人  
女貳百四十八人

馬三十五疋

一同九拾三軒

今津留

人数三百九十七人内男貳百十四人  
女百八十三人

牛貳疋 馬三十三疋

一同貳百五拾九軒

勢家

人数千三百廿五人内男七百八人  
女六百廿七人

牛廿七疋 馬五十六疋

一同三百三拾三軒

駄原

人数千七百十七人内男九百四人  
女八百十三人

牛九拾六疋 馬七十九疋

一同百四拾八軒

人数七百五十一人内男四百五十五人  
女三百四十六人

牛九疋 馬廿五疋

東西八ヶ村

一惣高三千四百四拾八石壹斗八升九合六勺

一家数千四百廿四軒

一人數七千九十七人

一銀五百五拾九匁四厘

萩原

但塩濱運上

一居城要害之事

但城北ハ遠淺海迄拾五丁程三方平地

一御本丸東西四拾五間余南北ハ四拾七間、天守え取続矢倉貳

ツ、其外乾坤翼又西、門左角一ツ、此通矢倉四ツ、二ノ丸

出口矢倉廊下橋有之

一二ノ丸ノ間數東西百六間余南北五十四間余、二ノ丸之内東

ノ丸矢倉五ツ、西ノ丸矢倉四ツ、東西ノ出合曲輪三卷ツ、

三ノ丸え出口門矢倉廊下橋

一西ノ丸ヨリ北ニ當リ山里丸ト申曲輪有之、矢倉式ツ外ニ門

矢倉

一本丸より三十間計ノ堀之外中嶋ト申松原ノ内ニ前々より数

奇屋有之、夫より町曲輪取続帶曲輪ト申曲輪有之、外ハ海

え続タル入口ニテ御座ル

一三ノ丸間數東西式百四拾八間南北百三十一間余、此外、鋪

八間高サ三間之土居有之、矢倉五ツ東西北ノ出口門矢倉有

之ハ

一三ノ丸内中嶋曲輪ノ内屋數數九十七ヶ所、其内式ヶ所寺九

ヶ所藏屋數勘定所一ヶ所馬屋一ヶ所稽古場一ヶ所給人屋敷

五拾八ヶ所

一大手口ハ城中より先南ニ向門際ニテ又東ニ向扱北ニ出其後又

東ニ出南向ニ出申ル

一御城矢倉數惣合式拾八計リ有之門數拾三ヶ所、但矢倉門冠

木門共ニ

一領分堅横道法之事

東西長サ八里半余、上洲小袋村より萩原村公料堺迄

一土地出来諸色之事

米 大豆 粟 蕎麦 大小麦 芋 菜 大根 稗 黍 芥

子

但塩入杯之處ニハ七嶋植申ル、煙草ハ新起畑ニ作申ル

一金山材木之事

金山ト申ハ無之、松木山有之ハ得共大木ハ無之其外雜木山

少々有之ハ

一名所名山之事

四極山 但高崎山共

笠縫嶋 但小嶋共

一古城名有所之事

田浦之内

高崎山

大友家籠城旧跡于今本丸ニノ丸曲輪跡有之ハ

大平寺之内

尼ヶ瀬山

但尼ヶ城共

鎮西八郎為朝母居城之由申傳ル

影戸之内

大津留城山

大友家臣大津留常陸籠城薩摩亂之時ト申傳ル當時ハ田畑ニ相成ル

永興城山

大友家城跡ト申傳ル

律院城山

右同断

一古戰場之事

但府内領ニハ無之然トモ迎合等ノ場ト申傳ヒ儀ハ所々ニ

有之

一佛神敬并祭禮之事

一祇園神祭禮

正月十五日 六月十五日

一由原八幡宮 二月初卯 放生會

八月十四日生石濱御殿之出御、一山衆徒社人神事執行神樂有之、同廿日由原之還御

八月十一日より同九月朔日迄廿日之間濱市立有之、近国近

郷近村遠国より諸色為商売諸人相集市中惣銀高九百貫目程

此内七歩ハ所々相残り三歩ハ其先々ニ持帰り由、年ニ仍

商売少半時ハ町人共仍願所之為救九月四日五日頃迄モ差延

月末ニ成祓川向小島近所ニテ花火申付役人共罷出ヒ為商之

儀ケ様之儀ハ先代日根野織部正ヨリ無断絶儀ニ御座ヒ

一春日宮 初申二月 祭禮九月十九日

一住吉宮 祭禮六月廿八日

一稻荷宮 同 六月八日

一若宮八幡宮 同 三月三日新祭 九月十五日

一王子宮 同 十一月十五日

右之外村々氏神祭禮等御座ヒ得とも略之神社造宮城主より

申付分

一由原八幡宮

但大友時代より于今無意轉三十二年目造宮、右之節追操

修覆仕様

一同末社

生石内

一火王宮

律院門

一祇園宮

一馱原内

一王子宮

今津留村

一天神宮

一勢家内

一春日宮

中津留村

一天神宮

寺社料

一春日宮

一祇園宮

一由原

一吉祥院

一東井坊

一佛性坊

一佛光寺

一祝所

一悟真寺

一聖養寺

一府内より赤野迄五里十七丁半同高松迄壹里半赤野より高松

迄三里半十七丁半或ハ四里余も有之

一馱賃 壹里 壹疋 三十式文

一輕尻 ” ” 廿式文

一人足 ” ” 拾六文

一府内より赤野迄馱賃三匁五分壹厘壹毛



一〃輕尻 式刃四分卷厘四毛

一〃人足 卷刃七分五厘六毛

籠高之事

本高  
一〃式万式千式百石

内

新田五百石新田之代本田千石

合千五百石 如四弟主計頭ニ分知

一 殘高式万千式百石

外ニ込高

式千四百九拾石七斗三升式合

又此外開免高除之

御救米之事

一年々町組拝借米大豆七八百石程上納ハ四月切寄利付直段借

込時ノ相場四月納不得込へは暮迄モ申延込利ハ四月迄ニテ

其余ハ無利年々如此

一 享保十七壬子年凶年ニ付餓飯料於佐賀関大坂御町与力川方

間右衛門羽津元右衛門より買受申込

一米高千六百石

府内領百姓共飢料度々ニ相渡分

但男式合女老合之當行也

分知松平者官  
一米高百六拾五石

分知六ヶ村百姓共右同断當行同断

町困窮之事

一 十五年以前子年十一月唐人町より出火ニテ四丁程焼失

一 十三年以前寅正月十四日堀川町より出火北西風強実檢堀<sub>(マ)</sub>

リ西不殘焼失

一 十一年以前辰七月於北町より出火拾式三丁程焼失

一 四年以前亥四月七日町中過半焼失度々類焼故困窮有之也

右寛保三癸亥四月七日未下刻下柳町市兵衛ト申もの之宅よ

り出火乾ノ風強三ノ丸侍屋敷不殘焼失浄安寺福寿院共ニ七

ツ半時西ノ丸二重櫓ニ火移本丸書院居間玄関天守北大門冠

木門二重櫓東大門二階廣間多門鐘櫓本丸口櫓門北廊下橋土

蔵菱櫓冠木門山里廊下橋東ノ丸座鋪廻り不殘三階櫓良角櫓

涼所玄関前平櫓同所冠木門玄関廣間大書院上櫓小書院中興

居間台所三ノ丸西口二重櫓同所門番所里郷倉中郷倉侍屋敷

寺院共七十一軒家中土蔵十二焼失其他蔵々も焼失

一 殘分

西丸墓所坤角櫓平櫓本丸扇子櫓山里角櫓東ノ丸南ノ角櫓廊

一濱ノ市何ニても運上無之年々銀貳貫目程ツ、町人共え貸申ゆ

東西貳丁 祓川迄

南北貳丁 磯辺迄

町数廿一丁惣小屋数三百拾六軒之内坊中小屋三十九軒外

ニ芝居四ヶ所商売銀高四百八拾七貫六百拾壹匁余

此外ニ銀八貫八百四拾七匁余芝居大小四ヶ所之分右は

去ル丑年之分也

道法

肥後熊本三十リ 肥前大村六十一里

肥前平戸六十七リ内九リ船渡

同(マ)天草五十一里内二リ船

豊前中津十七リ 小倉 三十一リ

筑前福岡四十一リ 同秋月三十七リ

日向延岡二十九リ 同高鍋四十二リ

同佐土原四十五リ 同(マ)小肥六十一リ

薩摩加兒嶋七十リ 筑後柳川三十七リ

筑後久留米三十二リ 宇佐十三リ

高田 十七リ 森 十四リ

白杵 七リ 日出 七リ

下橋并番所門櫓土蔵東口二階門櫓番所北ノ口二階櫓門櫓番  
所西ノ口門櫓平櫓北中櫓中嶋口小門北ノ丸口門中嶋茶屋御  
城米倉侍屋敷堀川口船奉行屋敷與郷倉町郷倉西ノ口中郷倉  
但櫓十三ヶ所内門櫓四ヶ所侍屋敷七軒倉三ヶ所家中門土蔵  
殘分土蔵七ヶ所門七ヶ所内裏門貳ヶ所御城下上下紺屋町寺  
町今在家町塗師町田町堀川町二丁船頭町三口御門番所并東  
西新町右之分相殘ゆ但獄屋相殘也

一町組惣寄

家数貳千七百六拾七軒

内寺廿五軒

庵四軒

山伏六軒

人数壹万貳千五百三拾八人

男五千六百八人

女六千七百十七人

内 僧百七十八人

山伏十八人

尼十七人

濱ノ市之事

杵築 十リ 竹田 十二リ

日田 廿一リ 長崎 六十六リ

右延享三寅年改同年より當天保五甲午年迄八十九年

郷庄左之通

一 種田ノ庄 津守ノ庄 阿南ノ庄

賀来ノ庄 荏隈ノ郷 笠和郷

挾間郷 滝ノ河内 高田庄

一 豊後国大分郡ノ内九拾七ヶ村城下共

笠和郷之内

府内町 松末町 千手堂町

但南府内町ハ笠和郷  
北府内村トハ荏隈郷

笠和町 同慈寺町 勢家町

六坊村 律院村 太平寺村

田浦村 白木村 大山村

志手村 椎迫村 七曾司村

内成村 来鉢村 駄原村

生石村  
但生石北側賀来庄  
南側 笠和郷

賀来庄之内

賀来村 中尾村 野田村 金谷迫村 由原村

賀来庄種田庄之内

入組 小野津留村

津守庄之内

羽田村

高田庄之内

下郡村 牧村 萩原村 花津留村。

中津留村。今津留村。

○印之分三ヶ村笠和ノ郷ト言、不審也

種田庄之内

豊饒村 畑中村 尼ヶ瀬村 奥小路村

荏隈郷之内

上村 田中村 古府<sup>(マ)</sup>国村 竹ノ上村 永興村 羽屋村

井蕪村

阿南庄ノ内

国分村 平横瀬村 下市村 上市村 雀田村 向原村

中村 海老毛村 宮苑村 高崎村 新村 山口村

中畑村 平床村 田代村 壇坪村 時松村 朴木村

黒野村 古原村 三船村 東院村 蛇口村 櫛木村

五福村 久保村 岩下村 透内村 甲斐田村 桑畑村

小原村 東家村 六郎丸村 雲取村 平良石村 中無

礼村 武宮村 後田村 橋爪村 葛原村 畑田村 中尾村

田口原村 瀬口村 宗寿寺村 竹中村 影戸村 抽木村

平原村 小挾間村 野畑村 富村 入小野村 上刈村

居城 大分郡笠和郷 府内

口留番所 右同所勢家町之内 京泊

一浦手七ヶ所之事 勢家

川口番所 沖濱 白木

田浦 萩原 今津留 生石

一七崎之事

洲崎 黒崎 鎌崎 芦崎 宮崎 鯨崎 佛崎

井出 椿村ヨリ 天和四子年堀之

一朴木村井出 貞享四卯年同断

一来鉢村 元録六酉年同断

一官苑村 堀替 同七戌年同断

一天 山野口

一重瀬口村 天山ノ口 同七戌年同断

一小挾間村 永 享保二酉年同断

一竹ノ中 櫟木村

一初瀬 一向原 一四郷竈数八千九百六十六軒

寺 七拾六軒

庵 廿五軒

山伏十三軒

一竈千五百八十一軒 里

寺 十四軒

内庵 六軒

山伏 二軒

一同千八百九軒 中

寺 三十軒

山伏 三軒

一同貳千八百九軒 奥

寺 七軒

内庵 十五軒

山伏 二軒

一同式千七百六十七軒 町

寺 廿五軒

内庵 四軒

山伏 六軒

惣人数合

三万八千九百三十五人

男一万九千六百七十人

女一万八千四十人

内僧三百七十人

山伏三十七人

比丘尼十八人

一淨土宗 十五ヶ寺

一真宗 三十三ヶ寺

一禅宗 十七ヶ寺

一天台宗 四ヶ寺

一真言宗 三ヶ寺

一律宗 二ヶ寺

一日蓮宗 二ヶ寺

〆七拾六ヶ寺也

豊後八郡

一四拾万八千三百三拾石卷斗七升

前々高にて八八千七百卅四石八斗七升多也

内

拾万九百拾七石

国東郡

五万五千貳百四拾九石四斗

速見郡

右之外五千六百九石貳斗

地震海川成

五万五千九百八拾五石六斗三升

大分郡

右之外四千百拾六石七斗

地震海川也

稻葉 加藤 中川三人為内檢地高也

四万五千四百拾五石九斗九升

海部郡

右同

五万七千七百六拾九石

大野郡

右同

三万五千四百拾五石卷斗三升

直入郡

右同

式万七千九百六拾五石壹斗七升 玖珠郡

式万八千五百四拾貳石八斗五升 日田郡

府内より道法

一 別府え上道四リ 一 船路 三リ

一 肥後八代四十一リ 一 日向縣へ二十五リ

一 三佐迄壹リ半 一 南郡迄十リ

一 日向高鍋四十リ 一 日向佐渡原四十三リ

一 日出 七リ 一 頭成 六リ半

一 日向鉄肥五十七リ 一 肥前相良五十七リ

一 森 十四リ 一 石垣 七リ

一 肥前嶋原三十七リ半 一 肥前大村 六十三リ

一 木付 十リ 一 佐賀関 七リ

一 平戸 六十五リ 一 唐津 四十九リ

一 豊前高田十三リ 一 宇佐 十二リ

一 長崎 六十七リ 一 福岡 三十八リ

一 中津 十六リ 一 羅漢 十八リ

一 柳川 三十七リ 一 久留米 三十二リ

一 小倉 二十九リ 一 臼杵 七リ

一 薩摩竜蔵寺四十リ 一 薩摩 七十七リ

一 鶴崎 二リ 一 熊本 二十九リ

一 日田 二十壹リ 一 佐伯 十四リ

往還道法

一 萩原村往還道公領新貝村山津村高松塚より塩九升口御門迄

廿八丁九間

一 下郡村往還道臼杵領塚目ヨリ塩九升口御門迄壹里三丁

一 古国府村往還道公領曲村塚川端より塩九升口迄三十町拾間

一 畑中村往還道臼杵領上宗方村塚川端より笠和口御門迄壹リ

五丁

一 直野内山村往還道より笠和口迄七里廿七町

一 武宮村往還道公領鑓草塚より笠和口迄六里廿五丁

一 朴木村往還道公領椿村ト塚法印塚より笠和口迄四里十六丁

廿間

一 田浦村往還道公領赤松村塚より堀川口御門迄貳里十二丁

一 御領内長サ直野内山村より萩原四辻迄八里廿六丁拾四間程

一 同横廣キ所平良石橋爪塚大神峠より野畑村高墓尾迄貳リ十

九丁程

歌原村にて

一見佛山浄土寺開山満誉上人文龜元辛酉年開基當寅年迄貳百四拾六年開山より當代迄十七代

右當寅ト有之ハ延享三丙寅年にて同四年より當天保五甲午年迄八十八年ニ成ル仍之右之年数ヲ加へて算之事(マ)下放之

一同村浄土寺末

大原山隨雲院開山浄土寺第三世雲誉上人開基ハ天正二甲戌年當年迄百七十三年

右八十八年ヲ増算之事

一同村同寺末

天照山西光寺開山浄土寺第五世善誉上人開基ハ元和二丙辰當年迄百三十卷年

右同断

一同村同寺末

天神院ハ浄土寺開山満誉上人古跡開基ハ文龜癸亥年當年迄百三十一(マ)年

右同断

一同村真宗光明寺開基ハ釈ノ耳讚永祿四辛酉當年迄百八十五年

年代々ハ十代耳讚より五世迄ハ西本願寺五代目浄西より東

ニ成

右同断

一同村真言宗良福寺開基ハ良舜法印其節ハ天台宗六代目良慶より真言ニ成十七代ニ成延久元己酉年より當年迄六百七十八年ニ成

右同断

一勢家村にて

真宗法専寺禪宗ノ旧跡也文明十六年真宗ト成夫より當寅年迄貳百六十六年

右同断

一同所同宗威徳寺永正六年開基寅年迄貳百三十八年

右同断

一同所真言宗竜祥院開基慶長四年今年迄百四十八年

右同断

一同所浄土宗西応寺禪宗之旧跡也開基不詳也

一同所同宗本願比丘尼寺也開基永祿十二年當寅迄百七拾九年

右同断

一同所 一西新町禪宗永福庵開基延宝元年當寅年迄七十七年

右同断

但右庵ハ宝林院様御代也

一同所同宗江雲寺

但本書ニ開山開基書落也  
生石村ニテ

一清水山靈雲寺中興開山獨芳大和尚は大智寺同開山也至徳年

中垂井寺ヲ再建立ス寺号ヲ靈雲寺ト改垂井寺歛進上人建立

也文永十一甲戌年より寅年迄四百七十三年

右同断

一日蓮宗本宮山常妙寺開山下野国正中山法寿院日諦聖人開闢

也大友家時代ノ由申傳ル年数之義相知不申ル

一同所同宗瑞相山本光寺ハ天文十七年修理大夫義鑑建立也開

山ハ権大僧都日賢上天文十七年より寅年迄百十七年程

右同断

一同所真宗光西寺開基釈円信大友氏之一族高崎古城播摩守著

景之子正永二乙丑年より當寅年迄武四十二年代八十一世本

尊ハ慈覺大師也彫刻之由

右同断

一浄土宗尋聲山專修院来迎寺開山文忠上人梵栄大和尚西山派

東山禅林寺粟生光明寺両山之末寺也文亀元年酉年より當寅

年迄武百三年代々十九代

右同断

一同所禅宗十刹蔭山萬寿寺興聖禅寺開闢嘉元三乙巳年開山佛

印禅師開基壇那大友左近将監貞親真翁侃大和尚當寅年迄四

百四十二年

右同断

一同所真宗浄竜寺丹波龜山より移万治元戊戌年より當寅年迄

八十九年

右同断

一同所真宗善巧寺開基法名浄誓始姓大友氏也光西寺第五世誓

乘法師之三男也當寺建立は天正十年當寅年迄百六十六年

右同断

一禅宗新豊山瑞光寺開山不肯受和尚開基壇那大友修理大夫親

千手堂内  
世開基年号不詳

一禅宗金狛山大智報恩禅寺開山獨芳清曇和尚永徳元辛酉年當

寅年三百六十年大友十一代次郎式部大夫親著建之

右同断

一同所同宗福田山報恩寺中興開山桂林大和尚宝年中前後共ニ

不詳



一西新町天神宮寛永十六年松ノ木元より石軀出ル夫より當寅年迄百八十年日根野織部正様御代

右同断

一春日大明神年数相知不申ゆ

一天神宮慶長元年瓜生嶋より其境内ニ移ス夫より當年迄百四十九年

右同断

一住吉大明神延宝四年西応寺境内今之所ニ移ス夫より當年迄七十一年如元様御代

右同断

一駄原村王子権現ハ延久元巳酉年正月元日熊野那知山より今之地へ御影向當年迄六百七十八年

右同断

一御高札

忠孝 毒薬 切支丹 捨馬 御添札 男女札 外ニ伴天連

札

正徳四年十二月

一元録七甲戌十一月御城下辻井戸拾八ヶ所出来也

一正徳元御願ニて同五年ニ出来新川舛形荷上場共ニ

一大友時代天正十四年九月仙石権兵衛ヲ嚮應ノ為ニ新ニ成土

橋仍之名仙石橋

但古より土橋之由也

一吉明公時代承応二壬辰二月始テ板橋ニ成

但堀川町幸松与右衛門一属八十余人初テ渡ゆ

一寛文二壬寅仙石橋修復

但渡初無し

一延宝三乙卯同所再興

但同断

一元録四辛未同所再興

但窪町桜屋助左衛門渡初

一宝永七庚寅三月修造

但梅屋喜兵衛同断

一享保二丁酉十月同断

但米屋町俵屋次郎兵衛渡初

一同十九甲寅十一月同断

但亀屋利兵衛渡初

一寛延三庚午再土橋ニ成

但渡初無し

一宝曆三癸酉四月始テ石橋ニ成

但梅屋喜兵衛渡初

右宝曆三癸酉年より當天保五甲午年迄八十二年之間御修復

無之

高松御領地附

一豊後国

大分郡  
直入郡  
玖珠郡  
速見郡

松平左近將監

大分郡之内四拾五ヶ村

一高卷万三百八拾三石六斗八升四合

内

高百九拾八石九斗九升九合

当時高松村下被察

同貳拾八石五斗五升四合

公料高松

同百六拾三石八斗四升貳合

延岡

同百四石八斗八升九合

同貳百廿八石四斗九升

高廿六石九斗八升

同貳百七拾八石五斗三升五合

同百壹石壹斗三升

同七拾貳石六升五合

延岡領本三河公料今三河

同七百五拾貳石五合

延岡領

同三百七拾貳石壹斗壹升四合

同領

同三百六拾三石八斗二升

同領

同貳百貳拾三石六斗貳升八合

同領

同五百八拾五石八斗九升貳合

同領

同三百九拾五石六斗六升五合

公料高松

同三百七拾四石八斗四升七合

延岡領

同六拾六石四斗四升九合

同領

同 今津留村

六六

同 三河村

同 門田村

同 植田庄

同 口戸村

同 木上村

同 雄城村

同 鴛野村

同 光吉村

同 宮崎村

同 石河村

同三百六拾五石五斗二升三合

同領

同 田尻村

同四百三拾八石五斗六升貳合

同領

同 寒田村  
且原村

同四拾四石七升

同領

同 高城村

同三拾貳石七斗六升壹合

公領

同 赤仁田村  
網河内村

同三百七拾石壹斗三升

延岡領

津守庄  
曲 村

同百拾貳石三斗七升貳合

同領

同 芳川原村

同百七拾三石五斗壹升

同領

植田庄  
栗野村

同百九拾壹石五斗九升九合

公領高松

清田郷  
百木村  
安田村

同六拾三石四斗九升三合

同

同 地吉村  
高取村

同四百六拾壹石七斗六升三合

延岡領

同 高吉村  
住床村

高貳百四拾八石七斗貳升七合

同領

同 米良村

同三百五拾石六斗七升壹合

同領

同 昆布刈村

同八百六石四斗七升三合

同領

同 光永村

同百八石壹升貳合

同領

戸次庄  
池上村

同三百四拾石七升

公料高松

同 成松村

同三百七拾三石三斗三升

同

同 真萱村

同七百七拾石六斗壹升七合

同

同 松岡村

同百拾四石六斗六升

延岡領

阿南庄  
後田村  
葦草村

同六百廿九石四斗一升七合

公料高松

同 長野村

同百八拾六石壹升

延岡領

同 龍原村

同廿貳石三斗九升貳合

同額

同  
池久保村

同三拾壹石三斗壹升八合

同額

同  
袋村

直入郡之内拾八ヶ村

一高貳千四百八拾五石六斗九升

内

高百拾石四斗六升壹合

下田北村之内

公料日田

石合村

屋形木村

片草村

若杉村

高七百三拾貳石四斗七升八合

同

同

城後村

釘小野村

名小山村

六八

高七百四拾三石四斗八升八合

同

井出野村  
須郷村

高四百八石九斗四升

同

二股村  
橋木村

高四百九拾石三斗貳升三合

同

同

小津留村

山浦村

中村

飛龍野村

塩手村

下津留村

山ノ口村

致珠郡之内貳拾貳ヶ村

一高六千四百九拾壹石六斗六升二合

内

高百三拾六石四斗三升三合

松木村之内

同

半田郷

見良津村

高五百拾壹石三斗貳合

同

惠良村

高四百拾石五斗壹合

同

旦村

高九百九拾八石壹斗二升三合

同

同

石田村

滝上村

高九百六拾九石五斗貳升

同

同

野上村

田代村

高三百五拾石八斗七升五合

同

野谷村  
堀田村

同

田野村

高貳百四拾石八斗五升一合

同

同

山田郷

湯坪村

高千九拾三石五升六合

同

同

町田村

麻生原村

串野村

高八百八拾九石四斗五升一合

同

同

引治村

西村

黒鹿村

高三百貳拾九石貳斗八升三合

同

菅原村

鍛冶屋村

口ノ藺村

高五百六拾貳石三斗二升

半田郷

同

後野上村

速見郡之内七ヶ村

一高貳千百七石四斗八升七合

内

高貳百七拾四石九斗八升三合

竈門庄

公料高松

高三百九拾四石四斗壹升六合

同

同

高五百八拾九石三斗壹升

野田村

同

高五百八石貳斗四升三合

同

同

高五拾三石五斗九升四合

小坂村

同

同

高百五拾九石壹斗三升三合

小浦村

同

同

高百貳拾七石八斗八合

古市村

同

同

外

亀川村

大分郡

直入郡

玖珠郡

外

高合貳万四千四百六拾八石五斗貳升六合

但村數九拾貳ヶ村

七百三拾壹石四斗七升四合

津守領ト物成詰ニ替地仕付て高不足之分

知行高合式万式千式百石

正保三年戌十月十日

一明和己丑年七月廿八日曉より雷雨未ノ中刻大地震早て大

雷雨、申ノ刻より雷雨止、御殿廻り其外櫓多門破損、中嶋

口山田武助預り櫓石垣共御堀へ崩落ル御旗櫓脇南側石垣崩

落北ノ口番所倒ル、同所石垣崩、御本丸南向石垣上ノ所崩

ル、東ノ丸南ノ方塀廊下橋上番所脇崩、北ノ丸御殿大

破、西ノ口櫓基石垣崩落右之外櫓土藏塀崩數多也、里郷倉

奥郷崩倒、御家中屋敷所々家損崩、町家同断破損多シ、

善巧寺庫裡転倒ル、来迎寺萬寿寺破損多シ

一同七月中頃より夜八ツ時分毎夜彗星出ル

一延宝八庚申十二月三日生石浦にて亦兵衛ト云者同浦え網打

ニ出釣鐘ヲ見出し取上タル、年号如左

豊後国垂井寺

観進上人願佛

文永十一年甲戌十二月十六日

大工茲蓮

右文永十一ヨリ延宝八年迄四百八十八年ニ成ル延宝八ヨリ當天

保五年年迄百五十四年成ル合五百六十二年ニ成也

右鐘海上ヨリ取上ル所破レ有之ニ付鑄直シ當時生石靈雲寺

鐘是也

御朱印御頂載

一殿有院様

寛文四年四月五日

一常憲院様

貞享元年九月廿一日

一文昭院様

正徳二年四月十一日

一有徳院様

享保二年八月十一日

一傳伝院様

延享三年十月十一日

一浚明院様

宝曆十年廿一日

一御當代様

天明七年十二月

松平左近将監

松平对馬守

御同人

御同人

後相模守と改

松平主膳正

御同人

松平長門守

御巡見

万治元方十ヶ年目

駒井求馬  
大久保源太左衛門

一寛文七未九月廿七日

御巡見使

享保二方三十年目  
一延享三寅四月十五日

岡野孫九郎

井戸新右衛門

青山善兵衛

富永靱負

酒依清十郎

寛七方十五年目

神谷左内

一天和元酉八月七日

同

延享三方十六年目

駒井次郎右衛門

小田切喜兵衛

水野小左衛門

一宝曆十一年巳三月廿一日

大河内善兵衛

市岡佐膳

天和元方三十年目

遠山織部

一宝永七寅四月廿八日

宮崎七郎右衛門

笥 新太郎

堀八郎右衛門

一寛政元己酉年三月十九日

池田稚次郎

銘紡七左衛門

宝永七方八年目

細井隼人

一享保二丙午年三月廿日

津田外記

一延宝七己未年由原御造宮

一寛延二己巳由原宮御普請三月廿九日遷宮六月廿九日遷宮



一同年十一月廿七日暮六ツ時方由原宮焼失、御本社回廊鐘堂  
普現堂多宝堂阿弥陀堂三王社経堂天神宮坊中五ヶ所但し法  
主坊火本、其外小宮モ式三ヶ所焼失

一宝曆十庚辰年春由原山廊門建之

一同十一辛巳年二月始方公領赤松村ト堺論、道奉行佐藤時右  
衛門小奉行兩人供人老人<sup>ノ</sup>四人赤松村へ被捕、御家老木村  
矢柄岡本弥左衛門兩人其外役人中庄屋百性迄江<sup>(A)</sup>戸え罷出翌  
年四月迄ニお片付赤松村百姓八人遠嶋或は手鎖有之也  
但右一件始末巨細帳面勘定所ニ有之也

御旧領上野國三之倉百姓惣代豊次郎出府文政十二丑八月十  
六日江戸御屋敷ニ罷出相吐<sup>ハ</sup>口上書

一慶長五年左衛門近正公伏見御籠城之節、小平治右衛門并悴  
甚蔵御供仕籠城之處八月朔日佐見落城ニて近正公御討死、  
小平次右衛門於御馬前打死、悴甚蔵義近正公御髪毛権現様  
方御拝領之左文字ノ御刀ヲ持甚蔵義三之倉え立帰、奥様并  
新次郎様へ差上ル甚蔵十八才ナリ

一御髪毛ヲ上州水沼村内山ノ腰ニ奉埋松ノ木ヲ植置<sup>ハ</sup>處、二  
抱程ニ相成老木<sup>ハ</sup>處、兩三年前以前方枯枝多分出來文政十一  
ニ至立枯ニ相成申<sup>ハ</sup>

一右之場所え近正公ヲ若宮八幡と奉称、何之頃方哉小祠村中  
ニて奉修補<sup>ハ</sup>、或時村中疫病流行之節奉祈願處早速平愈、

右ニ付村中尊ヒ御宮再建い<sup>タ</sup>シ<sup>ハ</sup>、其後元禄十二卯八月

松平主計頭近鎮様方御神靈百回御忌之節、御宮為御再建金  
三拾兩御寄附被成<sup>レ</sup>、御棟札ニ松平主計頭照何ト記有之

ゆ、御名乘一字分兼<sup>ハ</sup>、当丑七月十八日大風雨ニて御神木

松吹倒御宮破却仕<sup>ハ</sup>、御髪毛埋<sup>レ</sup>印之松ヲ御神木ト唱申<sup>ハ</sup>

一小平治右衛門何ノ頃方哉下平ト苗字唱申<sup>ハ</sup>、近正様御討死

以後相続名主役相勤罷在<sup>ハ</sup>

一近正公御討死之節被為召<sup>ハ</sup>御轡一掛房一飾代々持傳重物ニ

仕虫干等仕<sup>リ</sup>大切ニ秘蔵仕<sup>ハ</sup>

一若宮八幡宮御別當蓮花院ト申ハ御家ニて御開基之由申傳提

灯幕其外共釘貫ノ御紋相用申<sup>ハ</sup>、八幡宮御道具類も不殘釘

貫之御紋相用申候、正月十五日ヲ小祭ト唱八月朔日ヲ大祭

ト唱兩度之御祭礼と噂近正公御持躰老本蓮花院ニ有之<sup>ハ</sup>處

火災ニて當時身計有之宝物ニ仕罷在<sup>ハ</sup>

一元禄年中主計頭様妙義山御參詣、夫より御入湯之節御參詣  
也

右之通豊次郎出府之節相咄<sup>ハ</sup>由、尤右上州磯氷郡三之倉

水沼村ハ近正様御旧領ニテ前断之通若宮八幡宮ト奉称御

宮有之、則近正様ヲ奉勸請氏神ト奉崇、其村庄屋井同所

ニ別當有之ハ段江戸御屋敷御役人より申越也

一貞享四丁卯正月廿八日昌平橋之内掘田下総守屋敷御拝領也

一御居屋鋪

筋違橋之内

五千六百坪余

宝永五子十月十二日御改之所下之分五千十五坪三合九勺、

台之分千百四拾六坪二合也、合六千六十一坪五合九勺有

之、御拝領ノ凶下ノ御繪圖中五千六百六十一坪六合ト有

之、台竈之義不分仍蔵下六千坪程ト御書出しハ然ル処近来

御書出坪五千六百坪余也

大坂屋鋪

但中ノ嶋築嶋町

一表口七間裏四行拾四間三尺之内三拾八間水漲之分六間三尺

築出し、但先年川村随賢川筋普請之節築出五間御屋鋪内ニ

入都合拾一間三尺御預り之分成由但倉三戸前也

一元録十一寅二月十五日北本所石原御下屋鋪

千八百八十八坪二合一勺五勺

元録十三辰九月四日上段ヲ御中屋鋪ト御書出、其後御下屋

敷ト御書出、橋口は取初方御下屋敷ト御書出し也

一御下屋鋪

代々木村

三千八百拾六坪

元録十一寅二月十五日小石川代替橋口ニテ三千坪余石原一

所御拝領、正徳四年正月廿九日小田日酒井修理大夫御屋敷

ト元坪御引替御拝領三千百拾一坪余也、享保十五戌壬九月

廿九日代々木村大久保長門門守様御下屋敷ト書面坪數御相

対替御願濟

元録十六未十月十四日願出染井傳通院領

一御抱屋敷年貢地五千百廿坪、日本橋迄一里半余先年ハ程ト

御書出

一元録十五年午三月十八日御國繪圖之儀ニ付左之御書付出

一府内城下ヨリ大坂迄海上百四拾三里大坂ハ江戸迄東海道百

卅七里卅五丁余、海陸合江戸日本橋迄式百八十里卅五丁余

一府内城下ヨリ大坂迄百四拾三里大坂ヨリ江戸迄中仙道百四

十七里十九丁余、海陸合江戸日本橋迄式百九十里廿九丁余

一府内城下ハ大坂迄百四十三里大坂ハ江戸迄美濃路百三拾九

里四丁余、海陸合日本橋迄式百八十二里四丁余

一享保九辰年閏四月十九日仍御尋府内城ヨリ大坂迄陸道百五

十九里半余海上百四拾三里

右御書付被差出之

一大坂中ノ嶋築嶋町表口七間裏行三十八間式百六拾六坪御預

地東七間四尺五寸西七間四尺式寸五分五十三坪七步

万治元戌年忠昭公御打入之節、伊丹屋孫左衛門差上由當時

彼ノもの名代也

式万石御軍

一馬上千騎

一鉄炮五十挺

一弓 三拾張

一昇 五本

一鍵 五拾本 但長柄対之持鍵共

戊戌年ヨリ寺地免許

一屋鋪高卷石式斗五升

淨菴寺

一同 五石六斗六升七合

善巧寺

一同 卷石卷斗五升

長池倉

一同 卷斗四升六合六勺

胡町厩

一畑高四石式斗五升五合

来迎寺

一同三石五斗式升

萬壽寺

一同九斗四升三合

中間長屋式ヶ所

一同卷斗六升八合

北町新的場

一屋敷直高七斗八升

瑞光寺

一田高卷石四斗五升五合

同 寺

一皇高卷石三斗

同 寺

一屋敷高卷石五斗

常妙寺

一同 卷石三斗

本光寺

一屋敷直高 三石

光西寺

一同 九斗四升

大智寺

一同 卷石六斗五升

報恩寺

一皇高六石六升四合

大智寺

一同 八升四合

西新町  
天神社地

一屋敷直高八斗

威徳寺

一同 四斗七升

神宮寺

一同 式斗四升七合

本願

一同式石四斗

浄土寺

一皇高三斗式升式合四勺

癸未方松栄山順海

一同 三斗三升三合

丙子方久松庵

一屋敷直高三斗五升三合

丁卯方乙卯年迄住吉社地御

用捨之分

一宝曆三癸酉年銀札御願有之

一同四甲戌九月ヨリ銀札出来

一延宝四丙辰年三月廿七日忠昭公御隠居近陳公御家督

一天和三癸亥年〆町人六人宛浜ノ市え詰之也

一貞享二乙丑年六月十日近陳公御奏者

一元録六癸酉九月十二日忠昭公御逝去宝林院殿奉称

一同十丁丑年六月廿一日依御願御奏者御免

一同十一年戊寅年四月廿二日西新町与四郎ト申者宅より出火

家数三拾八軒

十月廿一日申ノ刻大地震西ノ口岩瀬三郎右衛門預り櫓御堀

え落ゆ、其外所々破損有之

一宝永二甲申近陳公十一月十一日御隠居近禎公御家督

一同四丁亥正月十五日御奏者

一正徳元辛卯十二月廿三日寺社奉行

一同年由原宮御造宮

一享保五庚子十二月十日近陳公御逝去證真院殿ト号

一同十乙己近禎公八月廿四日御逝去、大智院殿ト号、近貞公

御家督

一同十九年甲寅正月十四日夜四ツ時堀川町松屋与七郎倉より

出火、町廿三四丁類焼御城内ニては酒井七兵衛屋敷類焼、

家数六百八軒倉十三、死人九人内男六人女三人

一延享二乙丑年九月十八日近貝公御隠居、近房公御家督

一宝曆七丁丑年五月十二日近貞公御逝去

一明和七庚寅年七月十二日近房公御隠居、近儒御逝去

一同八辛卯二月二日下柳町清六ト申者宅より出火、家数六百

六軒町数廿七丁土蔵廿五

一安永二癸巳六月七日近形公御逝去

但、近房公宝曆十年近形公ト御改

一同八庚子正月廿九日下柳町利兵衛宅より出火、家数百軒余、

三月下柳町松物町唐人町え火除出来也

一天明三癸卯十二月十九日東上市町吉左衛門宅より出火数十七

丁

一同四甲辰正月廿五日、由原宮御仮殿え御遷宮

一同十二月朔日夜、西新町下駄屋より出火、丁数廿六丁家数六

百三十軒、外御家中類焼有之

一寛政元己酉年六月廿六日由原宮御上棟

一同八月廿九日御還宮

一同三庚戌正月二日古川町与六宅より出火、古川町米屋町万屋

町之内家数三十六軒焼失

一同十二月十八日九ツ半時上柳町段吉宅より出火、丁数十三丁

家数三百四軒類焼

一享和元辛酉年十二月十五日夜勢家町彦六宅ノ出火、沖浜町  
仙石橋通船頭町類焼、家数百拾軒

一文化元甲子年十一月六日近衛公御隠居、近義公御家督

一同四丁卯年近義公九月廿七日御参府之節御道中於岡部駅ニ  
御逝去、淨岳院殿ト号、同十一月廿七日近勇公御家督

但後近訓公ト改

一同七庚午年十二月廿五日曉七ツ時下柳町喜代治宅ノ出火、

中柳町桜町下柳丁魚町細工町町数八丁家数式百八拾九軒類  
焼

一文政元戊寅二月十六日由原官御上棟、同三月廿日御遷宮

一天保三壬辰二月廿日近訓公御隠居、近信公御家督

一寛政十一己未年八月朔日法性院様式百回御忌御相當ニ付、  
於松栄山近正大明神ト御神号ヲ以被遊御勸請也

一享保十四己酉年四月廿四日於松栄山栖克宮御勸請有之也

一由原山足立寺一ノ宮賀来ノ社トアカメ奉リケル由来ノ申セ

ハ、古昔ハ比叡山延曆寺ノ上人金龜和尚ト申ハ豊前国宇佐

ノ宮一千日參籠有之、妙典秘法ヲ勤行シ玉ヒ威光ヲ仰奉奉  
ル、御靈驗新タニシテ人王五十一代淳和天皇之御宇天長四

二年其形八足之白幡ト現シサセ、豊後国大分郡資采ノ庄ニ

大キナル楠木ノ枝ニ飛掛リ玉フ刻、社檀ノ御材木ハ大分郡

阿南庄倉木山ニテ取り始テ御神殿御建立有シト也、同十月

七日戌刻間ニ二葉山ノ倉木山ニ続キテ光リカヽヤクト也、

夫ノシテ倉木山之中ニテ星ノフリタル山ヲ分テ星嶽ト名ケ

則此星ヲ神躰トシテ星嶽高岡山妙見寺ト尊敬シテ御神躰ハ

阿弥陀如来ナリ、由原山ノ御神事ハ外酉之歳ヲ大神御會進

山拂之御祭礼、彼ノ星嶽二三所之御神輿御幸成テハ段所一

宿ニテ御遷幸也、則御座所之野辺ヲ幸野ト云傳也、扱倉木

山ニ於テ速見郡大分郡之界ニ吳国降伏之御ホコヲツキ立

給、此故ニ其山ヲホコノ峠ト云傳也、百王ノ末々迄吳国退

治ノ御政道神慮之威光難有事共也

一高崎ノ城は、大友先祖刑部大夫氏時は菊地肥後守ト合戦之

時籠運ヲ開キシ城也、尊氏將軍ノ御父子御下向之砌ニ大忠

切ヲ遂ル事

一禮記ニ七歳ヲ憚ト云

諺ニ西モ東モシラヌ故東西子ト云ハ非ナリ、禮記ニ七歳ヲ

憚ト云ヲ以テ考レハ七歳迄ハ憚歳子ナルヘシ

一天地開ケテ終ル迄ヲ一元ト云、此年数十二万九千六百年ヲ

以一元終リテ世界メツシ混沌トナル、混沌トハ陰陽未タハカレズトロウシナリ、天地開クルノ始ヨリ寛政七年迄六万八千八百十一年ニナル、今ハ後六万七百八十九年ヲ過テ天地又混沌ス

但、天津彦之火瓊々杵之尊受祖天照大神之敕降ヲ治此國ヲ始テ為地居、饗國ヲ三十一万八千五百四十二年生彦火火出見ノ尊饗國六十三万七千八百九十二年生彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊饗國八十三万六千四十二年、夫ハ人皇神武天皇鸕鷀草尊第四之子也、在位七十六歲御年四十六ニシテ位ニ付玉フトアリ、然レ共右ニ所謂一元終テ天地又混沌スト云ヲ以テ考レハ、神代之國ヲ有テタモフ年数ハイ  
 プカシ

一天竺ニテハ大之字ヲ摩訶と云、大盤若摩訶盤若同様也

一古禁裏院中書捨之反古多ク盈厭人見エ則裂之、直ニ使紙師再漉之數遍離洗墨汚尚帶淡墨色仍号水雲紙ト、凡ソ職事并官預萬事筆記スル者多、故ニ遺此紙於職事雜用或ハ使書口宣案等ヲ遣、外記ヲシ因之写繪旨、於檀紙世人見此案紙多ハ誤テ謂薄雲繪旨ト

一天竺ニテハ偈ト云、唐ニテハ詩ト云我朝ニテハウタ

豊後國府内城焼失千時寛保三癸亥歲四年七日前後覺書

一四月七日未上刻柳町火元、乾風烈敷其風砂小石ヲ散ス程ノ風ニテ段々大火ニ及、城内淨安寺エ吹付家中土家敷ニ吹散、未上刻城ニ火掛リ東ノ丸、夫ハ本丸天守、西ノ中刻迄ニ焼落ス、城内并士屋敷町家同刻ニ出火、雖然城内ニ死人一人も無之、尤町内ニも死人無之、怪我人ハ少々有之ハ、夜ニ入ハ、定テ怪我人死人も可有之ニ昼ニテ諸人怪我無之、三曲輪外塩九升町不殘焼失

一天守本丸廣間櫓乾櫓扇子櫓鐘櫓小廊下橋

一東ノ丸廣間玄關焼次、夫ハ并炉間舞台小書院脇ニ冊有之中

奥三間大奥五間台所三階奥櫓

一本丸大門小廊下門

一東ノ丸玄關前門

一西ノ丸乾櫓

一西ノ口櫓并門

城内殘櫓并門

一本丸北ノ方櫓 一東丸南角櫓

一山里ニケ所同所北ノ丸口門

一西丸南ノ角櫓同所入口門

一同所植込前櫓 一北ノ口櫓并門

在所ニテ櫓門又ハ多門ト申ヲ渡門ト公儀エハ絵図之節

ハ可申ル

一 中嶋口櫓同所門

一 東ノ口櫓并門

一 廊下橋并門并番所三ヶ所

一 水之手口門 一三曲輪門三ヶ所

一 御朱印

但此度ハ御次番多賀庄兵衛持出水ノ手カ船ニテ中嶋え渡

之、其夜ハ船番所ニ差置、庄兵衛致守護持人中半角平

籠作

焼残倉々

一 東ノ丸金蔵

一 麦蔵

一 東ノ丸町蔵、代官桑原助右衛門預

一 塩硝倉

一 西ノ口脇中郷蔵、代官村田李右衛門預

一 北ノ口奥郷蔵 ” 四童子彦平預

一 中嶋町蔵 ” 桑木監右衛門預

一同所御城米蔵二ヶ所

焼失倉

城内

一 里郷倉

一 中郷倉

一 東ノ口倉

一本丸台所預蔵

中尾安右衛門

城六郎右衛門

城内

一下台所味噌蔵

家中屋敷焼失

一七拾老軒 内

淨安寺

一家中町士屋敷十五軒焼残、其跡ハ不残焼失此内家中ト申ハ

中嶋十人中小姓七軒残ル

一 淨安寺薬師堂焼失

表閣二

脇ニ源氏泰立有之

薬師堂修復大智寺五代先之才伯智秀禪司ト棟札ニ有之、細工丁天神一ヶ所右焼失

一中嶋御茶屋残ル

一四月五日挾間村へ被遊御出二日御逗留、同七日野田村え直ニ被遊御出所、申ノ下刻府内出火之沙汰挾間村を早打にて内證申来ル、酉上刻弥出火、堀川か又ハ駄原ニても可有之哉と申来、仍之岩瀬三郎右衛門之右趣申上、然ル處酉下刻佐藤幾治御持藤四郎早ニて罷越、出火之所御家中不殘御城ニ火掛由申来、即刻野畑御立之節太田小三郎佐藤左五兵衛来、御天守へ火掛リ段申上、途中挾間村之内中村迄片野源左衛門御天守焼落段注進仕、挾間村津久井伊左衛門罷越御城御天守櫓之焼落段注進申上、直ニ中嶋御茶屋之御入御膳被召上御評談有之、尤中嶋え八日五ツ時前御入有之、九日来迎寺御引移御役人衆太田忠右衛門隱居鷹之嶋善大夫竹窓軒岩瀬三郎右衛門頭長院其外御家中役人近習衆新町六軒町勢溜り御移

明石屋庄九郎所

津久井伊左衛門

一故有て同十五日中島御茶屋へ被遊御移

一御役人方詰所御的場

一御朱印置所土舞台

御次番式人之旨

下番中半式人

一御茶屋番人

次郎兵衛居申所ヲ御中小姓御歩行番所成

一中嶋口番所給人老人足輕兩人

一中嶋露除口番所足輕老人ツ、夜ハ兩人

一寛保三癸亥八月十三日夕中刻大風雨午上刻より別て強御

城廻リ大木ヲ吹折中嶋御茶屋杉三本、尤大木中嶋御茶屋へ

吹折掛付御城米被暫御立退、此節之風備後国を西国肥前

長崎迄別て長崎之方強、此節同所之御使者江村丹左衛門肥

後国にて十三日返掛へ共往来相止候由、丹左衛門物語承之

一亥二月頃常ニ不来かもめ城廻リ之堀ニ大分来、人皆不審致

其時分説ニ白鳥ト申説也、焼失後考合へは誠ニ城取なり、

或は天守之辺大分黨トマリ、又空ヲ飛近年御堀冬を春ニ至

テ所ニよりてハ向ヒ渡申ハニ水少しもなき所有之

一六日之夜光りもの致小星飛、又明ヶ方寅之刻斗と存ハ時



分、東ノ口ノ長池辺丁ヲ數十人之女ノ声ニも致高咄通り  
シ、其声ニて目覚シ、乍併寝醒故其行先ヲ不知声のみ聞え  
家中ニても聞人有之

一七日早鐘響誓哉否天守之後通りニて數十人之女声ニて同音  
泣キ叫フ声有、聞人後ニ存出しひても悪身の揮如し

一世上方天守ヲ見ニ煙リ之包ハ様見届、尤様々説有之

一六日朝由原ニて護摩之節、御神殿屋根之のき少之風も無之

ニ左右ニ落ル、其外ハ変事なし

所々御使者来ル

十日  
一 中川佐渡守様ヲ御歩行使来、大智寺ニて大塚岩右衛門罷出

取次、尤御家老ヲ家老へ来ル井上金右衛門

一 小笠原右近将監様御使は堀川松屋ニて取次

一 松平市正様ヲ御使は御家老ヲ御家老へ七島延三百枚

四月廿八日  
一 中川佐渡守様ヲ御使堀川町ニて取次、御家老ヲ御家老え味

噌廿五樽醬油五樽

一 木下式部少輔様ヲ御使者 常川十左衛門

松 木  
式間物 五拾本

三間物 五拾本

竹 百束

一 杉丸梁 五拾本

右は大坂町天満屋四郎兵衛上ル、右之ものハ由原御普請之  
節材木代々被仰付もの也、大坂ニて受合便船毎ニ下ス

一 火事御届四月八日御届濟、御月番松平左近将監様

此便同廿日夜八ツ時府内着

一 潤四月四日御本書致来、尤若殿様へ被遊御登城ハ様松平伊

豆守様被仰渡ハ、対馬守儀家中土屋敷御焼失付金子式千

両拜借被仰付ハ段被仰渡ハ

四月廿四日早使者

一 御参府當十月迄ニ被遊御参府ハ様ニ被仰出ハ旨申来、為御  
受同廿五日早便出

一 光西寺残、尤寺中焼失

一 善巧寺残、寺中ニケ寺右同断

一 浄龍寺焼失

一 焼残町笠和天津屋ヲ北堀川船頭町残

一 笠和天神残

一 稲葉千次郎様ヲ松板六百枚御歩行使ニて来ル、尤切付脇付

五口分、為挨拶田辺八左衛門罷出

一 松平市正殿ヲ松板千枚、御歩行使ニて来ル。取次右同人

一大友第廿二豊後侍從四位下源朝臣義統永録五壬戌年百七十七

二年、天正五丁丑年九州大乱、百六十七年、同十一癸未壬

正月七日佐藤三河守永富帶刀允國方兵部少輔大井手堀ル、

同三月成就百六十一年

同十四丙戌十二月廿日薩摩軍兵入及兵乱、神社盡焼大友豊

前引退百五十八年

同十五丁亥秀吉薩摩え向シ為豊前え下向、大友帰國軍兵追

拂て家嶋へ住、百五十七年

文禄元壬辰高麗え出陣、仍之円寿寺法印へ

日ノ本ヲコキハナシユク船ナレヤ、上中下ノソテヲコス

ナシ（イワレ）松浦瀉波ノ夜昼袖ヌレテウキ世之コトヲマタイキ

ノシマ

百五十三年

同二癸巳義統浪人成リ玉フ

百五十二年

是迄大友家廿二代

三百九十八年ニシテ滅ヌ

元禄二癸巳九月因幡国島取城主官部法印善祥坊、加賀国城

主大聖寺山口玄蕃允正弘岡将来、当国中田畑竿入町反敵歩

定高三十七万八千五百九拾貳石、内田耆万三千貳百廿七丁

二定、此時神社佛閣悉ク公田ニ成、百五十二年同三甲午年

竹田岡城七万石給中川修理大夫秀成

同年臼杵佐伯太田飛彈守重正丹生城居

同年府内早川主馬首賜

百五十一年

一同四乙未年

第廿三早川主馬首從五位下慶長元丙申七月十二日申刻大地

震大浪三度至、瓜生嶋沖濱町三筋悉沉南ヲ本町中ヲ裏町北

ヲ新町ト云、沖濱至府内死人七百八人、百四十八年

一第廿四福原右馬介從五位下直高同三戊戌年大分郡速見郡致

珠郡之内十二万石右馬介賜、築城号荷落城、百四十六年

一第廿五早川主馬首從五位下同四巳亥二万石ニテ賜荷落城百

四十五年

一第廿六竹中伊豆守從五位下豊富朝臣重隆同六辛丑年、百四

十三年

一同七壬寅年天守及樓閣建、今ノ府内町寺方共元ノ府内移、

百四十壹年

一同十二乙巳府内外堀出来、百三十九年

一同十三戌申堀川堀并堀切道出来、百三十六年

一第廿七竹中安女正從五位下重與元和元乙卯年、百廿九年

一寛永九壬申年両新町出来

一同十一甲戌三月安女正薨、百十年

一同年中川内膳正小笠原彦岐守府城仕置御出也

一第廿八日根野織部正藤原朝臣吉明

一同十六己卯府内東西門建

一同十七庚辰三月府内堀川堀

一同年濱市廿日ニ成、將軍ヲ吉明公え御紋桃灯御免、百四年

一正保二乙酉年春日蓬来山令築、其賀ニ能アリ、九十九年

一慶安三庚寅二月十八日ノ挾間井手堀、吉明井手ヲ賀シテ

幾久シ吉明<sup>ヨシキナ</sup>ケキ初瀬川流レヲ受テ民もサカエン

右井手口觀音ヲ彫付、井手口ノ東院川ニ至テ百三十九丁五

十五間半夫數九万三千三百二人也、日數四十六日出来、九

十四年

一承応二癸巳五月仙石橋木ト成、仍之五月七日卯ノ時堀川町

長幸松与右衛門子孫家来八十四人仙石橋ヲ渡ル、九十一年

一明曆二丙申三丙月吉明薨

同年四月府城之番

木下伊賀守

小笠原市正

津田平左衛門

小川兵左衛門

小川又左衛門

八十六年成

同三丁酉四月稻葉能登守城番替リ八十五年

一万治元戊戌四月御入城

一第廿九松平左近將監源忠昭公

一第三十松平對馬守源近禎公

一第卅一松平對馬守源近禎公

一第卅二松平對馬守源近貞公

近貞公御代寛保三癸亥四月七日未上刻柳町市兵衛ト申者

火元及大火御城御天守御家中町不殘焼失、尤紺屋町今在

家町塗師町堀川丁西新町焼殘ル、家中町怪我人四人死人

四人

將軍吉宗公え御届八日ニ御使出ル、御老中御月番松平左近

將監様え御届相濟、閏四月御息主臈様ヲ被為召松平伊豆守

一 絵図仕御所筆頭

様被仰渡ゆは、府内城并家中屋敷焼失ニ付金子貳千両拜借  
 被仰付ゆ段主膳正様へ被仰付之  
 一 久留嶋信濃守様を御使者七嶋延百枚  
 一 毛利周防守様を七嶋延貳百枚其後手網十掛干鯛一箱  
 一 中津奥平大膳大夫様を備後表五百枚塩鯛一箱御使者ヲ以到  
 来

来

一 西丸御普請三間染六間ニ本古屋有ヲ取立此年盆踊無之

一 寛保三癸亥九月中御城焼炭片付、惣頭岡本忠兵衛大目付高

橋丈右衛門被仰付取仕舞ヲ

一同十一月再築之御願絵図仕立、松平左近将監様へ御内見御

出シ

但絵図掛リ

御用人

手嶋善太夫

中里甚平

権藤安野右衛門

右五人被仰付

小畑豊左衛門

堀吉郎兵衛

坊主新斎

岡本勘之丞、此人ハ聞番、権藤安野右衛門此人ハ御近習絵  
 図掛、兩人罷出得差図絵図出し、松平伊豆守様御月番ニ差  
 出し所相濟、極月中ニ相濟、同月晦日再築勝手次第仕様被  
 仰付之、為御禮晦日七ツ時伊豆守様え御出

右御城焼失之書留ハ近藤才右衛門方へ有之、同人より借受

写置也

天保九戊戌年五月写之

# 豊後大友氏の

訂 増  
**研究** 渡辺澄夫著 ■新版完成

謎の多い初代能直以来の大友氏の歴史に科学のメスを加えた初  
 版に新たな論文を増補した著者二十余年間の研究の結晶。ハ初  
 版御講読の方は、誤植・誤脱がありましたので無料でお取替え  
 します。当社までお申し出くださいVA5・定価三八〇〇円

〒810 福岡市中央区大手門 3-15-14

電(0992) 74116006

第一法規 九州支社